

# 集团的自衛権閣議決定「撤回」陳情

## 栃木、小山市議会



# 「不採択」でも賛否拮抗

## 一部保守系、訴えに理解

市民団体「戦争をさせない全国署名栃木県連絡会」などが県内の全市町議会に提出した集团的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求める陳情。「不採択」とした市町議会の中で、栃木や小山など賛否が拮抗するケースが生じている。憲法解釈変更を閣議決定した手続きへの批判や「戦争に巻き込まれる可能性が高まる」との懸念が県民の間にも広がっている状況が、保守系も含め議員の判断に影響しているとみられる。

付託された常任委員会での陳情を「不採択」とした栃木市議会。9月定例会最終日となった23日の本会議でも不採択となったが、採決の内訳は「不採択」18に対し「採択」15と迫った。同日となった23日の本会議で市議は、憲法の平和主義の重みを訴え「内閣による憲法解釈変更」に多くの国民が不安を抱いている。将菜

集团的自衛権行使容認の閣議決定の撤回や反対を求める陳情の採決で、賛否が拮抗した小山市議会。26日午後、小山市議場

同市議会では一部自民系党派も陳情賛成に回った。賛成討論に立った大川秀子市長は、憲法の平和主義の重みを訴え「内閣による憲法解釈変更」に多くの国民が不安を抱いている。将菜

付託された常任委員会での陳情を「不採択」とした栃木市議会。9月定例会最終日となった23日の本会議でも不採択となったが、採決の内訳は「不採択」18に対し「採択」15と迫った。同日となった23日の本会議で市議は、憲法の平和主義の重みを訴え「内閣による憲法解釈変更」に多くの国民が不安を抱いている。将菜

付託された常任委員会での陳情を「不採択」とした栃木市議会。9月定例会最終日となった23日の本会議でも不採択となったが、採決の内訳は「不採択」18に対し「採択」15と迫った。同日となった23日の本会議で市議は、憲法の平和主義の重みを訴え「内閣による憲法解釈変更」に多くの国民が不安を抱いている。将菜

を左右する重要な問題は、まずは国民に十分に説明し直接問うべきではないか」と力説。判断理由について「多くの市民が肌で不安を感じている状況を、政策に反映させるのが地方議員の役目だから」と述べた。市民団体「戦争をさせない市民集会」小山実行委員（若林英二代表）からの陳情と合わせて2件を26日の本会議で一括審議した小山市議会でも、賛否は拮抗した。陳情採択の立場で討論したのは共産や連合系議員のみだったが、内訳は「不採択」15、「採択」13だった。

た小山市議会でも、賛否は拮抗した。陳情採択の立場で討論したのは共産や連合系議員のみだったが、内訳は「不採択」15、「採択」13だった。一方、矢板市議会は10日の総務厚生常任委員会での認識の一致を図りそのため

た小山市議会でも、賛否は拮抗した。陳情採択の立場で討論したのは共産や連合系議員のみだったが、内訳は「不採択」15、「採択」13だった。一方、矢板市議会は10日の総務厚生常任委員会での認識の一致を図りそのため

「国」に意見を提出するのと個人で陳情を出したなど、大田原市北金丸、鈴木庸さん(50)は「いくつかの議

会を傍聴したが、体制に流

求めるのが趣旨だが、集团的自衛権そのものの賛否で判断する議員もいて、議論選んだものではない。国民は明確に示されず、国民が主権の危機であることを分か

石碑のデパート  
富田石材商会  
結城駅前